

北海道医師会では、本道の地域保健等の向上・推進に資する調査研究活動への助成事業を実施しております。昨年度は以下7つの調査・研究に対して助成いたしました。

調査・研究内容については、北海道医師会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

●掲載はこちら 北海道医師会トップページ → 北海道医報 → 2019年9月1日[第1212号]

■執筆者 岡村 暁子（札幌市医師会/札幌市学校医協議会）

テーマ 運動器検診の円滑な導入と今後の対応に関する検討（2）

学校内科検診で運動器検診も行われるようになって今年度で3年目となる。今後さらに円滑かつ効果的に実施されるために、整形外科医による講習を行った。受講した学校内科医にアンケートを行い、現状と今後の課題を検討した。

■執筆者 澤田 陽子（札幌市医師会/札幌市学校医協議会）

テーマ 平成30年度札幌市における学校心臓検診に関する調査検討

現在、札幌市において小・中学校1年生を対象に学校心臓検診が施行されており、受検率は98%に達している。学校管理下での不整脈等による心臓突然死を未然に防止し、児童の健康管理に重要な手段であり、今後、さらに検診における問題点を検討しながら実施するべきと考える。

■執筆者 新谷 朋子、高木 摂夫、佐野 宏行、堂坂 善弘、成田 慎一郎、愛宕 義浩、打田 葉子
（札幌市医師会/札幌市学校医協議会）

テーマ 耳鼻咽喉科学校健診結果と全国定点検査との比較

札幌市内の小、中学校健診の平成30年度の検診結果について、有所見者の多い滲出性中耳炎、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎の3疾患について検討し、同年度の調査の全国23都道府県の定点検査との比較を行った。滲出性中耳炎は全国の有所見割合とほぼ同じであるが、副鼻腔炎は札幌市はいずれの学年も全国に比べて多く、アレルギー性鼻炎は反対に少なかった。

■執筆者 水関 清、平田 博己、中島 滋夫（函館市医師会/函館動脈硬化懇談会）

テーマ 家族性高コレステロール血症におけるアキレス腱超音波像の検討・第2報

冠動脈疾患予防の観点から早期発見が望まれる家族性高コレステロール血症例のアキレス腱超音波像を検討した。前後径を捕えるX線法では、3割程度の症例は増大なく正常域にあるが、超音波法では前後径と横径の比の増大と内部エコーの不整像を捕えることができ、有用と思われた。

■執筆者 結城 佳子、中島 泰葉、若林 智、刀禰 聡美、佐古 和廣

（上川北部医師会/名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター）

テーマ 過疎・寒冷積雪地域における移動能力実態調査（第3報）

過疎・寒冷豪雪地域の住民を対象に、特に冬季の心身の健康状態に関する主観的評価を把握することを目的として、日本版GHQ30（The General Health Questionnaire 30）を実施した。一般住民を対象としていることをふまえると、有所見者の割合は高く、特に睡眠障害について得点が高かった。

■執筆者 古田 博文、吾田 富士子、吉木 美恵（北海道保育保健協議会）

テーマ 震災による子どもと保育者のストレスに関する調査

－北海道胆振東部地震時の園の対応と地震後の状況調査－

北海道胆振東部地震は夜半に大きな揺れを生じ、引き続き1-2日間の大停電を引き起こした。この災害に対するストレスについて、震災直後および3ヵ月後の園児（+保育者）の様子をアンケート形式で比較検討した。また、園側の（地震+停電）の当日の対応についても合わせて調査した。

■執筆者 土島 智幸、鈴木 大真（北海道小児科医会/医療法人稲生会）

テーマ 北海道胆振東部地震に伴うブラックアウトにおける在宅人工呼吸器患者への対応に関する研究

平成30年9月6日未明に発生した北海道胆振東部地震に伴うブラックアウト時の札幌市内および近郊の在宅患者190名（内156名が在宅人工呼吸器利用者）への対応について、災害時の病診連携の在り方を中心に、発災直後から55時間の患者対応記録に基づき電気依存度別に分析検討した。